

スイスイ運んで、ゴールにシュート！

フロアホッケー



- 対象
 - 小学部、中学部、高等部の児童生徒
 - 手と目の協応に課題がある児童生徒
 - 決められたルールの中で、他者と競い合ったり応援し合ったりするなど、集団での活動を学習する児童生徒
- ねらい
 - 簡単なルールを理解し、物の操作をしながら、安全に身体を動かしたり勝ち負けのあるゲームを楽しんだりする。
 - 力加減やスピードを調整して、身体を動かす。
- 教材が活用できる授業名
 - 体育、保健体育 ●遊びの指導 ●生活単元学習 ●特別活動
- 提供
 - 附属久里浜特別支援学校 工藤 飛鳥・柳下 笑子

教材の特徴

- ・実態差がある学級でも、ボールを運ぶ、シュートするなどの動きに、個々で取り組むことができるので、初めてのチーム戦に適しています。
- ・ボールの大きさや数を変えることで、難易度を調整することができます。
- ・ボールを運ぶ、シュートするなどの一つの動作を習得することで、動きにつながりをもつことができ、スムーズに取り組むことができるようになります。



用意する物・材料

- 【材 料】 ・サランラップの芯 ・カラーガムテープ ・綿 ・新聞紙 ・ひも ・フェルト
- 【作り方】 スティック：①サランラップの芯を2～3本つなげ、カラーガムテープで巻きます。
②先端に丸めた新聞紙を綿、フェルトで包んでひもを結びます。

- ボ ー ル：①新聞紙を5、6枚重ねて5cm程度の幅で折ります。
②フェルトを縫い、中に折った新聞紙を入れます。
③円状に整えて止めます。
ゴールポスト：箱型のものであればどのようなものでも代用できます。

使い方・実践例

- ①2チーム（写真では赤チームと青チーム）に分かれます。
- ②自分のチームの色のボールをスティックで運びます。
- ③ゴールにシュートします。
- ④全部のボールがなくなったら、ベンチに座ります。
- ⑤結果発表



場の設置



試合の様子



交流の様子：応用編ルール

♪教材のアレンジや工夫♪

- ・車いすに乗っている児童生徒でも、取り組むことができます。
- ・通常の学級との「交流及び共同学習」でも取り組むことができ、応援し合ったり、協力したりして、互いに関わりを多くもつことができます。
- ・ねらいに応じて、ボールの形状やルールを変えることで、学びのバリエーションも増えます。また、次のように応用することもできます。

【応用編ルール フロアホッケーリレー】

- ①2チームに分かれ、順番を決めます。
- ②スティックをバトンにし、ボールを操作しながら、コーンを回ってきます。または、ゴールにシュートします。
- ③次の人にスティックを渡します。早くゴールをしたチームの勝ちとします。